

<p>団体名</p>	<p>しあわせ考房・あい</p>
<p>説明文</p>	<p>1. 事業名 —認知症高齢者に対する優しさを育む子ども啓発活動と教材作成の実践— 「やさしいひと・まち・ふれあいプロジェクト」</p> <p>2. 事業内容</p> <p>1) 事業目的 保育や幼児教育での知識と経験及び、認知症の方に対する援助の知識と経験を融合し、幼児期の子ども達にもわかりやすい教材を開発、活用し、子どもたちに認知症の理解を促す機会を通して、豊橋市が進めている「高齢者や認知症高齢者にやさしいひとづくり、まちづくり」の推進の一助、担い手となることを目的とする。 子どもに伝わりやすい身近で親しみやすい内容・表現に留意し、子どもが集中できる時間の設定、子どもの人数・環境に柔軟に合わせられる内容にする。認知症の方や家族の尊厳を考慮し、偏見が生まれないように配慮する。</p> <p>2) 方法 パネルシアターを通して、認知症高齢者及び家族の理解を図る。</p> <p>3) 事業結果・成果 幼児期などを対象とした認知症の啓発活動としての取り組むための教材や活動はまだ少ない。内容はキツネの子どもが母親と祖父の家に遊びに行き、一緒にカレーライスを食べるが、食べ終わって間もなく「ごはんはまだか。」と言う祖父に、母が怒るという設定。医師のクマ先生の説明を聞き、キツネの子どもが「忘れちゃっただけで、嘘はついていないのだから優しくしてあげないと悲しくなる」と母に伝える。8月から、台本やパネルシアターを作成し、登場人物などはPペーパーなどで制作した。2園(昭和保育園 38名。明照保育園 51名)の5歳児に、「認知症には優しさが一番の薬」であることをパネルシアターで伝え、手遊びを入れながら楽しく行い、「認知症の啓発活動」を実施した。</p> <p>3. 今後の見通し 保育士資格を取得し、介護福祉士の学びを活かした特徴ある私達の活動を後輩に引き継ぎ、子どもたちへの認知症啓発活動のモデルとして提案していきたい。</p>



1 : 制作中の様子



2 : 製作物の写真



3 : 昭和保育園での様子